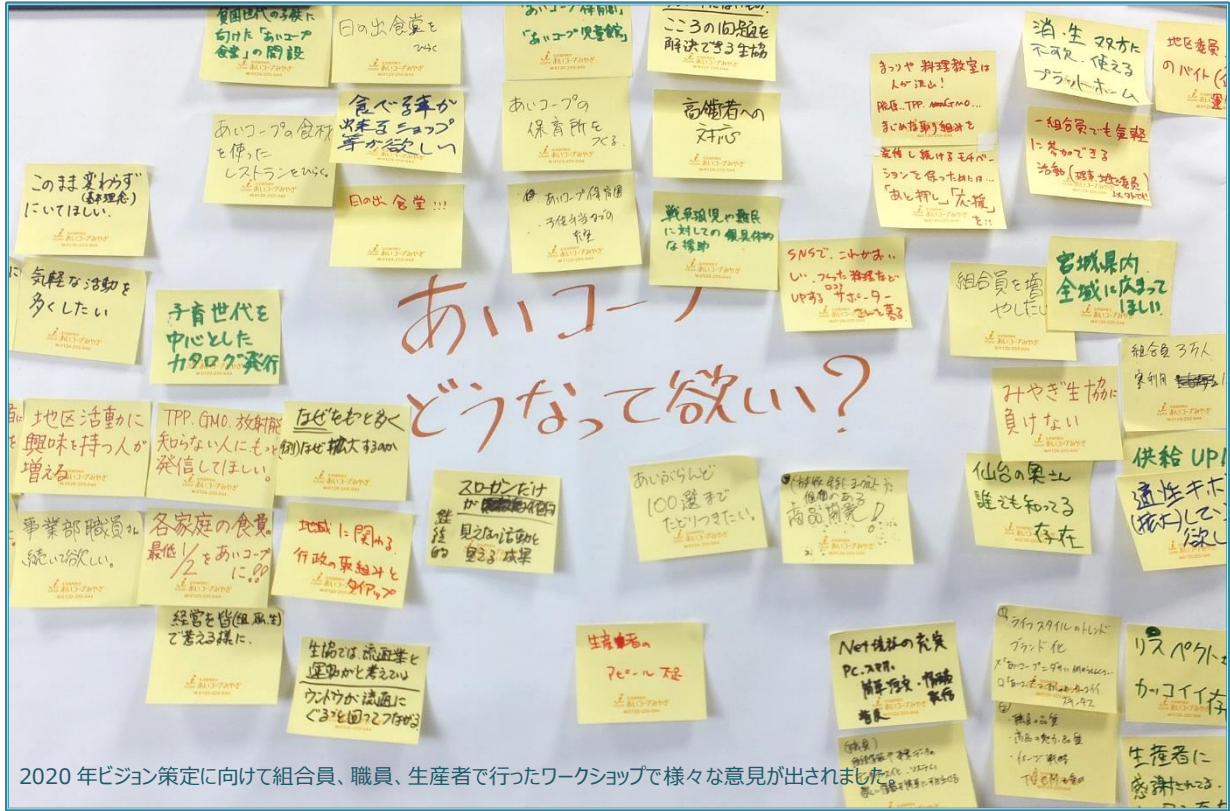


あいあいあい

I eye 愛

2017年
3月号



2020年ビジョン策定に向けて組合員、職員、生産者で行ったワークショップで様々な意見が出されました。

3・11が開示した「協同」の記憶に依拠して

専務理事 多々良哲

3・11大震災の後、被災者が礼節を保ち、分け合い、助け合う姿が世界から賞賛されました。例えばあいコープは、震災の後、全国の友好生協や生産者から送り込まれた支援物資を組合員宅や避難所に配ることに専念しましたが、あいコープが届けた支援物資を自分より困っているご近所さらに配る組合員さんが多くいらつしやいました。戻ってきた職員の報告を聞いて私は驚きました。だって全て閉まったままのスーパーやコンビニはいつ開くかもわからず、買った食料を自分の家族のために確保しても誰も責められない状況だったのですから。

しかしそのような「災害ユートピア」＝被災地に生まれた創発的自治的なコミュニティは、店が開きライフレインがたなかり余震が少し治まると、徐々に解消していきました。やがてマスコミによる「つながろう」「がんばろうニッポン！」の大合唱。時の首相まで「絆」と言い出し、上からの共同性＝ナショナルリズムのほうへ回収されていったのです。

「協同組合」とは、人々の創発的自治的な協同性（それはその本性上「短命」です）を、なんとか持続しよう・固定しようという企てであると言えます。その企て＝協同組合の事業体としての継続のために、「必要悪」として専従組織（官僚組織）が発達し、その末に多くの協同組合が「官僚支配」に陥り、当初の企ては忘却されます。

あいコープは、3・11の記憶（＝人々の創発的自治的な協同性）を手放さず、むしろそこに依拠して事業成長を成し遂げていきたい。…ということを思い起こす日として、あいコープの3・11がやります。

CONTENTS

- ▶ 震災から6年。あいコープの使命は …1
- ▶ 震災を忘れない。そして前へ …4-5
- ▶ 市民による女川原発の再稼働と問うシンポジウム報告 …7
- ▶ 新しい仲間づくりのかたち …2
- ▶ 障害者雇用貢献事業者感謝状授与 …6
- ▶ 生産者さんにあいに行こう！みやぎのきのこ …8

春だ！仲間作り！

-思いを実現できる生協を目指して-



好評のプチパーティー！



Wa！わぁ祭りでは、来場した大勢のゲストさんにあいコープの説明を聞いていただきました。



2016年はいままでな
いくらい、イベントへの参
加に力を入れて来ました。
特に理事や組合員サポータ
ー、生産者の皆さんと共に
出展した一番町の「伊達美
味（だてうま）マーケット」

2016年度、あいコー
プは「1300名の新たな
仲間を利用していただくこ
と」を目標に活動してきま
した。この原稿を書してい
るのが2月なので、まだ今
年度の最終結果は出ていな
いのですが、組合員の皆さ
んの協力のおかげで、ほぼ
間違いなく目標に到達する
見込みです。



伊達美味マーケットで生産者・組合員と一緒に
出展してアピールしました。

生協の役割は、社会の
色々な問題（遺伝子組み換
えや農薬、食品添加物、放
射能など）にむきあって世
の中をいい方向に導いてい
くことなんだな、と思っ
ていますが、理想を実現す
るにはまだまだ私たちの社会
的発言力が小さいなあ…、
と感じる事もしばしば。ま
た、美味しく安全な商品
を生産者が安心して作り続

には、多くの組合員さん
にも来場して頂き感謝して
います。2017年度最初の
「伊達美味」は暖かくなっ
てくる4月に開催予定です
ので、みなさんは是非遊び
に来てください！
実は2016年度、13
00名加入の内およそ50
0名ほどが組合員さんから
の紹介によるものなんです
。あいコープがみなさん
のロコミで広がっている生
協だということは本当に素
晴らしいことだと思ってい
ます。



中川啓介
(左から4人目)

けるためにも、あいコープ
のさらなる飛躍が必要で
す。
さあ、春です！新年度の
始まりです。春はたくさん
の方が新生活を始める時期
でもあり、毎年多くの方が
あいコープの仲間になっ
ただけの嬉しい季節。今
年も皆さんのご協力をいた
だきながら、仲間作りを楽
しんでいきたいと思いま
す。
事業部営業課課長

「農的社会的な可能性を考える」

地場生産者研修会を開催



仙台市太白区の会場に
11団体 48名が集まりました。

県内の耕種農家を中心とした生産者研修会が1月12日50名の参加で開催されました。これまで栽培・肥培管理や土づくり・堆肥等の研修を行ってきましたが、今年は農法を広く捉えて、目指す農業の在り方、地域社会との関係、持続性や担い手・後継者等々について考える研修会を企画しました。講師に元農林公庫の薦谷栄一氏を迎えて、コミュニティ農業についてお話を伺いました。

お話に先立って、夫々の産地から、自己紹介を兼ねて産地の現状や問題点について話していただきました。それを受けて講師からは、これからの日本の農業を発展させるためには、政府の唱える規模拡大ではなく、消費者と生産者の関係を発展させる農業、地域での専業、兼業、非農家との協力による地域社会の再生、消費者に近い都市農業の可能性、定年帰農や家庭菜園を含めた国民皆農等々

と農的社会的な可能性についての話がありました。講師からは研修会に参加した農の担い手に対して「県内各地から構成の異なる団体が集まっている事」「年齢構成も多様で世代交代が進んでいる事」「技術の継承・獲得に熱心である事」に感銘を受けたと評価をいただきました。

更にあいコープについて「組合員がこれら生産者の作った農産物を買って支えていることは勿論であるが、技術を獲得・交流していく機会を提供するとともに、見学にとどまらず体験や援農を含めた組合員消費者と生産者との直接的な交流に大きなエネルギーを注いでいる」との過大な褒め(?)の言葉があり、今後も薦谷氏と交流していくことになりました。

あいコープみやぎ顧問 小野瀬裕義

講師紹介
薦谷栄一氏
農的社会的なデザイン研究所代表。1948年生まれ、宮城県出身。



地域農業の基軸となるのが生産者と消費者、人間と自然の関係性を重視したコミュニティ農業となる。このコミュニティ農業にしっかり足場を置きながら農業経営の確保、経済性とのバランスをはかり、多様な担い手による多様な農業を確立してこそ日本農業は生き残り可能となる。(農業論の基本フレームより抜粋。農的社会的なデザイン研究所HPより)

「循環型社会を目指して」リーフレット発行！

私たちの産直生産者は、互いに協力しながら資源の地域循環を実践しています。その地域循環型社会実現を目指した取り組みが一目でわかるリーフレットを共生会が発行しました。ご希望の方は組織運営室までお申し付けください。



あいコープ共生会
循環型社会を目指して



あいコープ共生会が目指す地域循環型の食へのづくり

各産地からの2016年度実験報告

大郷グリーンファーマーズ：
露地ネギにおける
農薬不使用栽培



秋保ゆうきの会：
葉菜における病害虫対策

迫ナチュラルファーム自然村：
未利用資源を活かしたぼかしづくり



震災から6年 忘れない。そして前へ

2011年3月11日。

東日本大震災から6年が経ちます。復旧、復興は確かに進んでいますが、あの日のこと、あの日からのできごとを風化させてはいけません。

今回は、敢えて当時の写真とともに、震災の体験を3人の方に書いていただきました。

震災の経験をわかちあい、自分自身も振り返って今を見つめなおしてみましょう。



津波で全壊した高橋徳治商店の第2工場



第1工場の復旧作業にあたる高橋英雄社長



復旧作業をしたくても、潮が満ちると浸水してしまう

少しの自信と仲間とで、 変わることができる小さなよろこびの仕事を作るんだ。

死者行方不明者21927人。更地になった自宅や工場跡に北西の風が砂塵を巻き上げ身体に殴りかかる。風化がどんどん早く進んでくると脇を歩く被災者の友人がポツリと言った。風化はあの全てを自分のお腹に落としこんでくれないからじゃないかとは言えなかった。そうなんだ、あの時を境に一人ひとり何がしか沢山のことを抱えてそれぞれが苦しみもがき胸をかきむしりながら頑張ってきた。有無を言わず突然重いものを背負わされた。大川小学校に初めて行った三年前、流され捲き込まれ浮き沈みしながら子供達の必死の悲鳴が聞こえた。何日も何日も自分の中に闇や深淵からの助けてと言う声が付きまわった。震災後をどう生きるか…私にとって背中に負ってきた言葉、死者からの遺言かも知れない。忘れた

い、忘れられない、私も含めた多くの方に辛いだろうが自分と向き合い大切に日々を生き考え続けてほしい。供養じゃなく我が事として。あれから五年を越えて六年を迎える。この地で本当に必要とされる自分やスタッフ、会社になろう！被災地で力になり笑顔になり自ら光になる、そう誓った三年前から被災地で心に傷をおい居場所がなく経済の論理に追いつかれる人々と出逢い、見続けてきた。嫌いな言い方だが社会的弱者と言われる。ある意味自分のことでもあり彼らと並走しながら被災地にまん延する出口がないような状況に向き合えたらと考え続けた。少しの自信と仲間がいて変わることができる小さなよろこびの仕事を作るんだ。もしかしたら私の人生最後の挑戦かな。

歩きましょう、共に。あなた方が自ら光になるんだよ。皆さんも光になるんだよ。

高橋徳治商店 社長 高橋英雄



高橋英雄社長

生協とは人を笑顔に出来る仕事なんだと分かりました。

2011年3月11日午後2時46分に発生した地震の時、私は多賀城、塩釜付近を配達していました。津波が来ることは全く想像できませんでしたが、ラジオを聞き、異常事態と判断し組合員さんに避難を呼びかけながら配達を続けました。配達終了直前、目にした光景が「津波」でした。



鈴木利成職員

川が逆流し氾濫寸前。次の宅配場所は高台だったのですが橋を渡ることが危険とされ渡れず、状況を考えてうえて一度センターに戻ろうとしたのですが、信号が止まっているせいで道路は大渋滞。45号線に入ったので安心した直後、川が決壊。海からと川からの津波により私はトラックに乗ったまま津



震災直後のまんま通信。左が3月5日、右は4月1日

人生の舵を福祉へ。 活動を通して出会えた皆さんのおかげです。

爆撃を受けたような町跡。近くの運動場が瓦礫集積場になり、高い山となっていました。友人知人の訃報が届き、途方にくれながらも、「今出来ること」をしていくよりほかになく、当時の私には、未来を考えるゆとりなどありませんでした。辛かったけど、生きていくしかない。それが、生き残ったものの定めとばかりに。誰がどんな人生の選択をしようとも認め合おうとゆったりとおしゃべりできる場を生協活動に取り入れしました。石巻の支援活動では、避難所に馴染めない等の居場所に困っている人のため

波に流されました。エンジンが切れる前に窓を全開にし、車が浮き、不安定な状態から自力で窓からトラックの上へ。周りの車がひっくりかえる中、奇跡的にトラックは倒されず、私は民家の屋根へ飛び乗り一晩屋根の上で過ごしました。水がある程度ひいた朝方歩いてセンターへ戻りました。

その後数日間、配達はもちろんガソリンの供給もまともに出来ず落ち着く目途が立たない状況ではありましたが、県外の友好生協から次々と支援物資が届きました。その物資を組合員さん、避難されている方々へお届け。物資を手渡すと、笑顔で「ありがとうございます」と、疲れがたまっていたにもかかわらず皆さんに喜んでいただきました。その時の笑顔や言葉は忘れません。生協とは人を笑顔に出来る仕事なんだと分かりました。震災から6年たった今も、支援物資を運んでいた友好生協に感謝し、「笑顔」「元気」をモットーに配達させていただいております。 事業部職員 鈴木利成



日の出町センターの物流倉庫



友好生協から支援物資が次々と届いた

に「地域サロンよってがいん」を立ち上げようとしていた福祉職の皆さんと出会いました。私は、「よってがいん」を支えようとあいこープとして出来る事を考え、備品提供、食材支援、組合員による人的支援、助成金申請や企画運営を手伝い後方支援を組合員とともに行いました。六年間が経ち、人生の舵を福祉へ切ることになりました。活動を通じて出会えた皆さんの励ましのおかげです。本当にありがとうございます。これからもお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

あいこープみやぎ 前理事 鈴木智子



後列右から2番目が鈴木さん よってがいんにて



報告 放射能汚染廃棄物いっせい焼却方針の再考を求める署名を提出



高橋理事長が署名を手渡しました

昨年12月26日、宮城県に「放射能汚染廃棄物一斉焼却反対署名」の第一次集約分2553筆を提出しました。当日朝までにあいこープが集約したのは566筆です。あいこープの組合員に署名用紙を配る前に5百筆以上集まったのですからすごい数です。翌27日に開かれた市町村長会議では試験焼却実施の合意に至らず「一旦棚上げ」となりました。しかし村井知事は計画を撤回したわけではなく、半年後に再提案すると言っています。この問題をさらに多くの人に知らせ、反対の声を集めるため署名活動を続けていきます。第一次分提出後も組合員、生産者、友好生協などから続々と署名が届き、2月20日現在、あいこープの累計は2341筆になりました。署名用紙をご希望の方は、あいこープ組織運営室までお申し付けください。

報告 子ども甲状腺エコー検査が行われました

「放射能問題支援対策室いずみ」の子ども甲状腺エコー検査が12/18、1/27の二日に渡り、あいこープみやぎ日の出町センターで実施されました。当初12月にのみ行う予定でしたが、定員をはるかに上回る120件以上もの申込みがあり、急ぎょ1月にも行い両日で71組101名の子供が検査を受けることが出来ました。それでもなお、24件の方には対応しきれず、次回の案内をお待ちいただいているほどで、宮城県民の甲状腺検査ニーズが高いことがうかがえます。福島県の子供甲状腺検査は縮小傾向にありますが、福島でも宮城でもきちんと検査をして子どもたちを見守っていく必要があります。



甲状腺エコー検査の様子

おだいの
たねまき



誰もが安心して暮らせる社会を

障害のある方の雇用促進フォーラム

あいコープが障害者雇用貢献事業者として 仙台市長から感謝状を贈呈されました



感謝状贈呈式に出席した高橋理事長
(右から一人目)

を見定め、専念してもらえよう心がけています。作業に専念することで職場の中で誰よりも熟達でき、同僚から欠かれない戦力として認められ、本人の働くことへの自覚を高め、責任をもって業務に取り組み姿勢に繋がっています。

2月7日、情報産業プラザ多目的ホールに於いて、仙台市による「障害のある方の雇用促進フォーラム」が開催され、あいコープが障害者雇用貢献事業者として仙台市長より感謝状を贈呈されました。

現在あいコープみやぎでは障害のある方4名を直接雇用しています。日の出町にあるセットセンターでは、組合員に配達する商品を通い箱にセットしてあります。膨大な量の業務に対応するので、障害のある方は重要な戦力です。セットセンター長は、障害のある方に合った業務

また、あいコープは特別支援学校への実習機会の提供や、社会福祉法人への作業委託など、業務を通じた障害者の社会参加支援にも取り組んでおり、セットセンターでの野菜や果物の小分け作業も委託しています。商品カタログ「まんま通信」には、社会福祉法人みんなの輪の事業所「わ・は・わ」で生産したパンやジャム、NPO法人麦の会「コッペのクッキー」など授産製品を扱い、欠かせない人気商品になっています。今後もありあいコープは、障害のあるなしにかかわらず、誰もが安心して暮らせる社会を目指します。

1/19
(木)
報告

しおさい定例報告

しおさい地区委員会の定番行事

みんなで「みそ仕込み」をしました



しおさい地区では毎年、味噌作りを行なっています。今年も鎌田醤油の鎌田専務にお越しいただき、手作り味噌セット3箱分を一緒に仕込み作業を行いました。地区委員が持ち寄った圧力鍋10台で前日から浸水した大豆を加熱。部屋中、大豆のいい香りに包まれました。柔らかくなつたら、塩と麹を混ぜたものと合わせ、さらに混ぜる。お子さんも一緒に混ぜまぜ。出来上がった22キの味噌は各自持ち帰り家で熟成してもらいます。

「敗」と「発酵」の違いは何か!?を鎌田専務にお話しいただきました。これから、発酵の過程で色々な菌と共存しなければならぬ味噌。みんなのお家で、どんな感じでごすのでしょうか。出来上がりが楽しみです。

お昼ご飯は、昨年仕込んだ味噌を使った味噌汁です。たつぷりの野菜に、先日まんま通信で紹介されていた「とろさバ缶」を使ってみました。食べ応え、味も満点！お腹も満たされた一日になりました。



理事会議事録抄

2017年2月7日(火)
▼2016年度活動報告(総代会二号議案)の策定について協議した。▼2017年度活動方針(総代会二号議案)の策定について協議した。▼組合員活動の年間計画案を検討した。▼「2020年ビジョン実現へ向けた福祉政策・アクションプラン」について協議した。▼GMナタネ生調査2017企画書を承認した。▼「日本と再生」上映会企画書を承認した。▼飯田哲也氏講演会企画書を承認した。▼食パン開発PTからの報告を承認した。▼まんま通信増ページ・リニューアル等の商品部報告を承認した。▼「食材セット」事業立ち上げに関する報告と提案を承認した。

組織概要

(2017年1月分)

【組合員数】	13,114名
【供給高】	158,387千円
【一人実利用高】	4,856円/週
【出資金】	1,109,051千円



いろいろな調べなくても、安心、信用してお買い物ができるあいコープですね。 仙南・小山 智子

「原発のない東北の復興を考える」
市民による女川原発の再稼働を問うシンポジウム
仙台国際センター大ホール

未来の子どもたちに

誇りに思ってもらえるには…



熱い語り口の金子勝氏

出」という事を示してくれました。日本経済の発展の為に原発は大事なのです。

「福島原発事故を機に日本は原発を廃止し、世界をリードする環境立国として益々発展しました」という教科書の文章を読んで、過去の世代(私たち)を誇りに思っている未来の子供たちを、今度は想像してみたいと思います。とても良いシンポジウムでした。

秋保ゆうきの会 渡辺重貴

何度も何度も想像しました。80歳くらいのおじいさんになった私が自分の孫に怒られる場面を。「昔、福島で大きな原発事故があったのに、なんでおじいさん達は原発を止めなかったの?」「そのせい(女川原発の事故)で宮城県に住めなくなつたじゃん! 宮城が好きなのに!」とにかく再稼働を止めようと、経済なんて二の次だと思っていました。しかし違うのです。シンポジウムで金子勝教授は、納得いく根拠と理屈で「原発はコスト高で世界的に見ても衰退産業でもある」「脱原発こそが新しい経済を作る」「再生可能エネルギーへの転換による新しい産業の創



会場には約 780 名の市民が集まりました。

入学祝・節目祝 ポイントプレゼント

- 入学祝■… 1000 ポイント
2017年春に小・中学校ご入学のお子様を対象
申請〆切…4/14(金)
- 節目祝■… 3000 ポイント
加入 20 年目、30 年目の全組員が対象

●お問合せ/あいコープみやぎジョイケア事務局
TEL 022-284-7277 FAX 022-284-6973
開局時間 9:00~17:00(土日祝日を除く)
詳細は 3/6~または 3/20~配布される
お知らせをご覧ください。

編集後記

今月号を編集するにあたり、どのように震災を取り上げるべきかを理事会で検討していました。そして、震災を経験し、ずっと宮城で暮らしてきた組員ばかりではないということに気づき、当時の写真も掲載しながら、3名の方に震災の体験を書いていただきました。震災を思い出すのがつらいという方もいらっしゃるかもしれませんが、伝えるためにも、振り返って考えるためにも必要だと思いました。今の私は、きちんと震災を教訓にした毎日を送れているから。

広報担当理事 高野 恵美子

●機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組員番号、氏名、電話番号をお書きの上、
配送もしくは FAX (022-284-6973) にて、
あいコープみやぎ理事会へお送り下さい。

組員の皆さんの『つばやき』も大募集中!

組員が利用できる電話相談

- 3/14 年金相談
相談員: 社会保険労務士 兵藤政行氏
相談時間: 13:30~15:30
- 3/14 法律相談
相談員: 弁護士 松澤陽明氏
相談時間: 13:30~15:30
- 3/21 ぐらしの相談
相談員: 消費生活専門相談員 加賀淳子氏
相談時間: 10:30~12:30
- 3/21 子ども相談
相談員: 宮城教育大学教授 菅井裕行氏
相談時間: 10:00~12:00
- 3/17 思春期相談
相談員: 臨床心理士・スクールカウンセラー 北條貴子氏
相談時間: 9:30~11:30

お申込み・お問合せはジョイケア事務局へ



022

284-7277

平日 9:00~17:00

電話相談について

- ▶各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。随時受け付け可能です。
- ▶予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア利用状況 (2016年12月分)

ささえあい(保障)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケアー)	41件	利用延べ人数	89名
集団託児	25件		
慶弔・出産	5件	◆ケアメイト	
電話相談窓口	10件	稼働延べ人数	88名
計	81件		

ジョイケア

NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。

個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。



●あいコープには、「おいしいものがいっぱい!」 総務部管理課 塚辺美佳

生産者さんに「あい」に行こう! ⑦ 宮城のきのこの巻

「放射能の影響で培地を変えた。でも、
コーンコブは使わない。舞茸は木に生えるものだから。」



現在は県内産のナラ、コナラを使っている

48歳で脱サラし、地元大和町で舞茸栽培を始めました。現在組合で舞茸を生産しているのは佐藤さんだけです。当時、舞茸栽培の指導者を呼んで、かなりの指導料を払って学んだものの、指導通りにやると全てがうまいかず、今では独自の栽培方法で育てているそうです。3.11震災後は降り注いだ放射能のせいで、それまで培地として使ってきた宮城県産の廃ぼだ(原木しいた

けを栽培したあとのぼだ木)のおがくずが使えなくなり、色々な産地を試してきました。しかし、小ぶりな物しか育たなかったり、遠方から持ち込んだおがくずだとこれまで生えたことのないカビが生えたりと、大変なご苦労をされてきました。地元の廃ぼだが一番なのですが、それが手に入らず、まだ納得のいく舞茸が作れていないそうです。とは言うものの、美味しくて貴重な佐藤さんのきのこ。是非ご賞味ください。



出荷までおよそ45日。
その間、春・夏・秋の季節を体感させる

まいたけと
きくらげを
あいコープに
出荷しています



麓上まいたけ生産組合
佐藤隆夫組合長

「震災による放射性物質の影響で、培地に使うおがくず(廃ぼだ)の産地変更を余儀なくされました。多くの生産者がコーンコブ(トウモロコシの芯を粉碎したもの)を使っていますが、本来舞茸は木に生えるもので、私は舞茸に適した環境をつくるだけ。コーンの培地を使うのは、組合員さんに申し訳ない気がして、本来の舞茸を作りたいと思って、おがくずを使っています。まだ、最高の培地は手に入りませんが、より良いきのこを目指していきます。」

「おらいのなめこは、・・・なめこだっ!!!」



武藤さんのなめこ栽培場は、大和町にあるご自宅のすぐ近くにあります。小屋の中には出荷時期に合わせて成長度合いの違うなめこが、花を咲かせたように並んでいました。武藤さんが元々なめこの培地に使っていたおがくずは、放射能の影響が及ばない産地の物だったので、震災前と同じように栽培できているそうです。買ってきた種菌は、独自の方法で栽培場になじま

せ過保護にならないように栽培します。今では宮城県内でなめこを作っているのは4人だけ。「小さいなめこが好きな人もいるけど、なめこは飲み物じゃねんだな。食感、歯ごたえがあってこそなんだ。おらいのなめこは、なめこだ!」



武藤さんの奥様が作った絶品なめこメニュー
左：なめこツナの炊き込みご飯 右：なめこおろし



顔の写真は
遠慮するよ。
はずかしがり
なの。

武藤一男さん

27歳から家業を継ぎ、米を作っていました。昭和45年頃減反政策が始まって、米価も下がって、米だけじゃ生きていけない!となめこ栽培を始め、今でもおつかあ(奥様)と2人で、コツコツとなめこを作り続けています。「スーパーで売っているなめこの袋の端を持ち上げて、ツツ〜となめこが下がっていくのは買っちゃだめだよ。いいなめこじゃないから。」

Calendar

今後のイベント

3/8 水

石けん環境委員会
布おむつ談議

場所/ 日立システムズホール仙台 和室
時間/ 10:00~12:00 参加費/無料

3/9 木

2016年度『食と農』活動を振り返って
優ぶらんど報告会

場所/ エルパーク仙台 セミナーホール1・2
時間/ 10:00~12:00 参加費/無料

専門委員会定例会

3/21 火

石けん環境委員会定例会

場所/ あいコープ日の出町センター 会議室
時間/ 10:00~12:00

3/23 木

脱原エネシフ委員会定例会

場所/ あいコープ日の出町センター 会議室
時間/ 10:00~12:00

アンテナショップたちまち 閉店のお知らせ

2013年10月にオープンした「アンテナショップたちまち」は、スペースをお借りしていた阿部酒店の閉店に伴い、営業を終了いたしました。応援してくださいました。ありがとうございました。